

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

西條茜「Phantom Body」

Akane Saijo: *Phantom Body*

作家ステイトメント



西條茜《果樹園 orchard》2022 | 陶 | 130x82x82 cm | 撮影：来田猛

イタリアの幻想文学で知られるイタロ・カルヴィーノの小説「まっぶたつの子爵」は、戦争で砲撃を受け、身体が左右二つになってしまった男の物語です。

奇跡的に生き残った子爵は右半身だけで帰路へ着きますが、やがて生き別れになっていた左半身も彼の元へ戻ってきます。

私はこの物語に描かれた奇妙な状況にどこか親近感を覚え、今回の展覧会のテーマにもなる“身体の在処”へのアプローチを始めました。

ここに存在しているのにまるで捉えどころのない感覚。

身体とは不確かなものだと、自身そして他者とのコミュニケーションを通してそう感じることは少なくありません。しかしその不確かさに決着をつけず、身体を通して思考し続けることでしか捉えられない世界があると私は感じています。これは私が素手で触れて作りあげる陶芸という素材・技術を選択していることから言えることかもしれません。

私は近年の制作において、陶磁器の特徴の一つである内部の空洞に息を吹き込むことで身体や内臓感覚の延長・拡張を試みてきました。土で作りあげた造形物に創世記さながら息を吹き込むとき、臓器とその造形物は内部の空洞で繋がって一つの塊になります。異なる存在として認識している「人とモノ」「人と人」が緩やかに繋がり“自と他の境界線が曖昧になる瞬間”、そこにはかつてマルセル・デュシャンが提唱したアンフラマンズ（超薄）な関係性が生まれるようです。

生き別れた子爵の半身はどのようにして長旅から戻ってきたのでしょうか。今回の個展では会場を一つの地図に見立て、身体が様々な場所を移動していくイメージを作り上げます。触覚性の強い陶芸という素材と、人の声や息を媒介にしたプリミティブなコミュニケーションを通して、自分そして他者の“身体の在処”を辿ります。

(2022.10 西條茜)

西條茜は、京都市立芸術大学で陶磁器を専攻し、在学中にはRCA交換留学を経て、2014年に同大学院を修了。陶を主なメディアとし、拠点とする京都市内のスタジオの他にも、世界各地にある窯元に滞在し制作活動を行っています。多彩な技法を駆使して表現される表面のリアリティに対して内部は空洞であるという、陶造形の構造プロセスに虚構性を見出し、西條は訪れた地に伝わる文化や史実と私的な体験や記憶を重ね合わせた虚実曖昧な物語を作り出し、独自の作品世界を構築しています。また、有機的なフォルムはしばしば西條自身の身体からトレースされることもあり、装身具や医療器具あるいは体内の器官や臓器を思わせる造形特徴からも、西條は常に身体をめぐるテーマを表現の核としています。2019年に制作した《コキユ》をきっかけに、陶の内部空洞に息を吹き込み、音を発生させる作品展開を始め、近年はユニット「TÔBOE」としてパフォーマンス活動も行うなど、陶と身体との親和性を深めてきました。そしてコロナ禍に見舞われた2020年以降、西條は陶と身体をさまざまな感覚で一体化させることで、既存の社会システムの境界を超えて人やモノが自由に繋がりをもち得る可能性を追求し続けています。本展に向けて西條は、“身体の在処”をテーマにある物語を構想し、約10点の新作によるインスタレーションで空間を構成します。また会期中には、作品から発せられる生の音を体感できる2日間限定のパフォーマンスも行います。洗練されたセンスで土と人とが触れ合う瞬間の美を捉え、さらには国内のアートシーン注目のU35作家として展覧会やメディアの数々にも選出され期待が集まる西條茜のアートコートギャラリー初個展をどうぞお見逃しなく、ご高覧ください。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：西條茜「Phantom Body」 Akane Saijo: *Phantom Body*

会期：2022年11月5日[土] - 12月17日[土] *日・月・祝 休廊

会場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00 - 18:00 [土曜日 - 17:00]

◆ 関連イベント：パフォーマンス「phantom body」

11月12日[土] 15:00 - 15:30 / 12月10日[土] 15:00 - 15:30 *入場無料・予約不要

【パフォーマー 大井卓也 / 遠藤リョウノスケ / 宮木亜菜】

助成：アーツサポート関西、公益財団法人現代美術文化振興財団

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社



西條茜《湿地 wetland》2022 | 陶 | 60x115x50 cm | 撮影：来田猛

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当：大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

◎ Artist CV

西條茜 Akane Saijo

- 1989 兵庫県生まれ
- 2012 京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻卒業
- 2013 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA、ロンドン) 交換留学
- 2014 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器分野修了
- 2020 京都市芸術文化特別奨励者

【主な個展】

- 2022 「Rudiment」日本橋高島屋 アートアベニュー、東京
- 2021 「胎内茶会」京都市営地下鉄醍醐車庫、京都
- 2019 「タブーの室礼」ワコールスタディホール、京都
- 2018 「Grotta / 胎内の孤独」同時代ギャラリー、京都
- 2017 「Folly」アートスペース虹、京都
- 2016 「ほ伏する山々」Gallery shop collage、同時代ギャラリー、京都
- 2015 「Hollow Tool Box」ギャラリーみやがわ、京都

【主なグループ展】

- 2022 「第1回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川 [11月20日 - 2023年2月26日]
- 2021 「石塚源太 + 西條茜 by ARTCOURT Gallery」CADAN有楽町、東京
「Lost in Translation」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都 *アートユニット「TÓBOE」として参加
「a double blanket」haku kyoto、京都
「闇をまなざし、光にふれる。」アートコートギャラリー、大阪
「表裏のバイパス」藤井大丸 ブラックストレージ、京都 *アートユニット「TÓBOE」として参加
「森夕香、西條茜 二人展：流転するあいづち」LOKO Gallery、東京
- 2020 「以美為用展〈陶芸〉～明日へのとびらII～」高島屋、京都
- 2019 「越境する工芸」金沢21世紀美術館、石川
「Kyoto Art for Tomorrow - 京都府新鋭選抜展 2019」京都文化博物館、京都
- 2018 「ニューミュージアム変・進・深化」京都芸術センター、京都
「Nature Art 人間と自然の営みとの境界で」JARFO 京・文博、京都
- 2017 「Ascending Art Annual Vol.1 すがたかたちー「らしさ」とわたしの想像カー」スパイラル、東京
「Test Case XI」European Ceramic Workcenter、オランダ
「rithome 西條茜+嶋春香」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
- 2016 「六甲ミーツアート芸術散歩」〈彫刻の森美術館賞〉六甲山牧場、兵庫
- 2015 「Sign of Happiness」Antenna Media、京都
- 2014 「Yumiko Ono Akane Sakura Gallery、東京
「月のアート」〈審査員特別賞〉ギャラリー月の庭、京都
- 2013 「DOMO」Hackney gallery、ロンドン

【主なレジデンス】

- 2022 クリエイティブレジデンシー 有田、佐賀
- 2019 Le Maupas A.I.R.、フランス
- 2018 European Ceramic Work Centre、オランダ

【主なコレクション】

京都銀行、新建築社



滋賀県立陶芸の森 創作研修館にて
2022年8月



【参考画像】西條茜《コキユ coquille》
2019 | 陶 | 65x35x20 cm | 撮影：米田猛



【参考画像】西條茜《嘘のゆくえ Whereabouts of the Liese》《沈黙と誘惑 Silence and Temptation》
2021 | 陶 | 15x40x15 cm / 56x65x45 cm | 撮影：米田猛